

「キンモクセイの木の下で (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

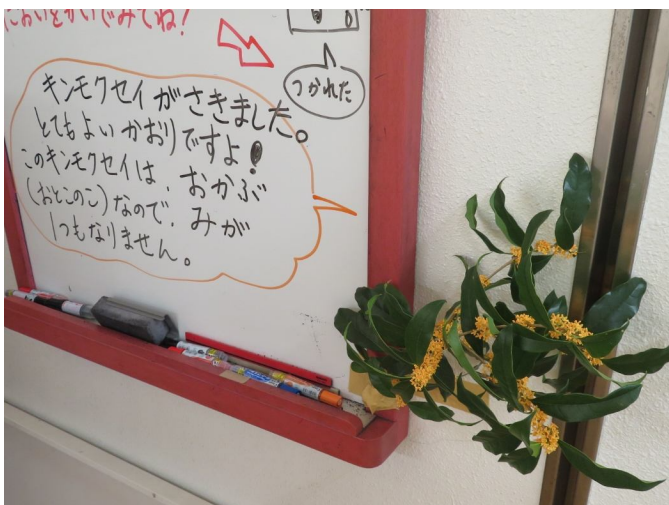
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

本校では、伝統的に「学級単位」よりも「学年単位」で活動や児童指導をすることが多い。各学年の入口廊下には「連絡用ホワイトボード」が設置されていて、毎朝子どもたちへの連絡事項が書かれている。



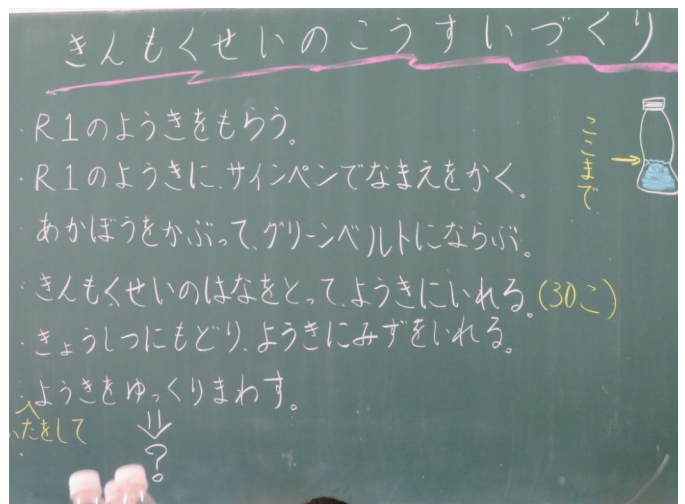
1年生の入口にある掲示板は、主に副担任の私が担当で、毎朝何かしら書くようにしている。1年生向けなので、全部ひらがな、カタカナで書かなければならず、これが結構大変だ。1年生の掲示板は、場所的に2年・3年も目にする。どちらかと言うと、1年生よりも2・3年生のほうがよく読んでくれる。



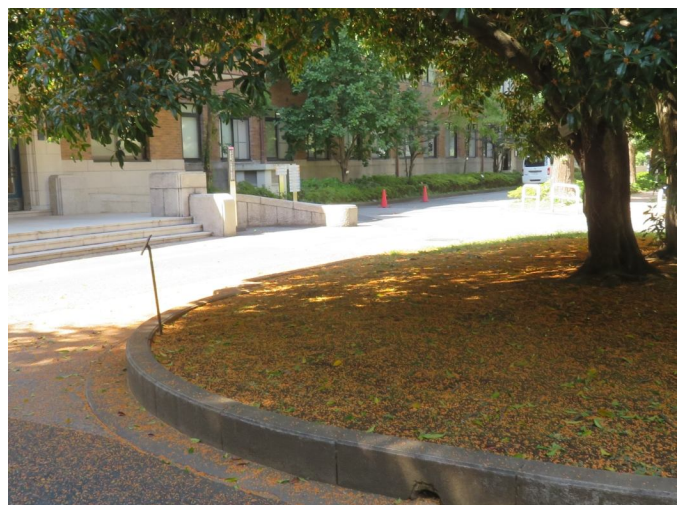
この日は、キンモクセイが開花したことを書き、2枝ほど切って枝を水に挿して、ホワイトボードに掲示しておいた。これだけでも、そのあたりにキンモクセイの香りが漂ってくる。



登校してきた子どもたちは、嬉しそうに香りを楽しんでいた。ここに「掲示」したキンモクセイの花は、その後1年生に全部持っていかれてしまった。



1年生では全クラス、「キンモクセイの香水」を作ることになった。これは1組の教諭の板書。無駄がなく的確な指示だと感心した。



この日、キンモクセイは満開をやや過ぎていた。落ちた花が樹下を埋め尽くして、地面がオレンジ色になっていた。この「落ち花」も強い芳香を放っている。